

ぶらり瓢箪

作られた不況のドン底で仕事が一番なかった頃のことやが、困ったときは何を考えるかわからん。

朝日新聞の女子求人案内に作家の黒岩重吾の秘書募集がでていたので電話したことがある。

「わしは男やが、あいりんの者やが、五日契約でもよいから雇ってくれんか」といった。相手の電話の主は女秘書らしい。ウソをいって断るのも秘書の大切な仕事らしく、返事はこうだ。「男は募集していません。先生はいまムスです」というなり、ガチャンと電話を切られた。

その頃、アパート代も四ヶ月分たまっていた。追い出されるのは時間の問題であった。大雨の降る日に洗濯機も質屋に入れた。質屋の女主人は、ずぶぬれになつて洗濯機を押してきたわしを見てびっくりしていた。その頃のセンターへ職を求めてくる労働者は少なくなかった。釜の労働者が三万人ぐらいいるらしいが、毎朝センターにくるのは百分の一あるかないか。「セ

ンターで飯は食えん」は有名だった。

毎朝センターに車を止めるのは決って本組と中山建設。でも顔付け手配でわしは一度も行ったことがない。ある日の朝、本組の車がくるのを待っていた労働者にまじって仕事の整理券をもらおうとしたがくれなかった。手配師は、その券を渡す前に労働者の顔を見て渡していたのだ。わしにはこういった。「お前はアカン」センターの数ヶ所に決って手配師が立っていた。顔付けの労働者は「おはようございす」とあいさつしていた。頭の下げ具合でその日の職にありつけるかどうかが決まった。

行ったこともない江川組の手配師が「行かんか」と言ってきたことがある。車に乗ると、顔付けの労働者がわしのツラを見ていやな顔をしていた。知らんヤツがくると顔付けのカンロクがうすれるらしい。わしはすぐ車から下りた。

×

×

西成労働福祉センターの飯場の紹介も一件もなく、いつかかってくるかわからん飯場からの求人電話をセンターの中で待っていたこともある。電話のベルが鳴ると、「おれが先や」といひがみあひもしていた。

アベノ職業相談室にも労働者が多く行っていたが、「あいりんの人はあいりん職安に行ってくれ」と門前払いもあった。「あいりん職安は仕事の紹介はしてないぜ」「・・・」

わしの場合はいや。わしが鉄工所の素人工に行きたいというと、「あんたは身分を考えて職さがしをしてくれ」と、まるでお前は釜の虫けらだと言いたさうであった。紹介するのがいやさに、会社に電話するにも手品がある。堺に電話するときには市外局番共でダイヤルを十回すわさないと通じないが、三回か四回まわしただけで「会社はだれもいないのか通じない。電話がかからない」と言うこともある。「身分を考えて職をさがせ」と言われたときは、頭にきて労働部に切手なしの手紙を出した。その後アベノ職業相談室の職員が「あんたのことで府庁から電話がかかってきた。どんな人かと聞くので、まじめなよい人やと答えた」とおべんちゃらを言っていた。

その頃わしは妙なエンがあつて、平海建設の飯場に十日契約で行ったことがある。日当四一〇〇円で飯代七〇〇円引。

西成へ帰つても仕事がないのがわかっていても、労働者はケタオチにはたえられないのか、トンコする勇氣はあり、次から次へとトンコしていた。わしは七日目の仕事中にトンコした。何日か後に金を取りに行くのと、親父はびっくりしていた。トンコした者は後で金を取りに来ないのが土方の憲法らしい。

×

×

ある日のセンターの朝のことである。一台の車をめがけて十数人の労働者が走っていた。人気があるので山口百恵の車かと思ったら、五月組のケタオチ車であった。

(政岡干城)

能性を感じてゐるからである。

町を明るくする会機關紙。明るく町々より
町を明るくする会機關紙。明るく町々より
号は、最近の釜にまたもや運動が、と予告を
ている。

町を明るくする会の古川会長は、「たしかに、あいりん地区のたたずまいは外形的には良くなった。騒動のあった労働者の町とは思えない様相であるが、これだけでは問題が解決したことにはならない。中味の体質が改善されていなければ、病根は至る所に散らばっている。」と指摘し、最近になって発表された行政側の「あいりん地区環境改善総合対策」についても次の様に不信感を露骨にあらわしている。

「結構な話で、地獄で佛に逢ったような
喜びにたえないが、待てば海路の日和かな
と早合点したりようこんたりはできない。
あまりにも永い歲月苦澁を括めてきた我々
の体験からして、これが一渡手形になる可

そして、現状から起る運動について、深い理解と同情を寄せていることを感ぜない。

「精一杯生きてきて、たった命だけの、着
たきり雀の多くの労働者が、生きて行く条件
の仕事がなくて病氣や行き倒れでひっそりと
死んで行く哀れな姿が、今も跡をたたないの
である。耐え難い苦痛から逃れたいという本
能は、良識や道徳を捨てて悪に走り罪科を負
うことも辞さなくなる者も出る。弱氣猫を喧
お、追いつめられた果ては、騒動への導火線
になることは誰でも知っている。」

これは暴動に理がある、という事である
 として、町を明るくする会は「常に、有事即
 応の態勢で臨んでゐるのである。」

つまり、暴動が起れば匪を明くする会は
労働者と共に、労働者の生活を確立するため
の斗争に連帯して立ちあがる暴動を整えてい
るといふこと。

い、さすがに地元の商売人を大総集した
会だけあって、労働者の生活の確立が自分達

の商売の繁栄にもつながつてゐることに気付くや、さつと従来の治安対策的思考から転換

するあたり、まったくみごとなのであります。

しかし、どういった会にも統制をなす者か
 いるように、かかる立派な会長の方針が確立
 されているにもかかわらず、まことにくだら
 ない対策を考えだす人達がいる。いわく、

○心算することなく、

。接客マナーに注意して、騒ぎの原因を作らないようにしよう。

。棒切れ、石、空かん、空びんなど瓦器にた
るような物を片づけて、環境を整理して整
こり。

なんとしても、服を返させては、いけ
ない。一寸した情報でも、すぐ警察署に知
らせるより、被害者を受けたら、すぐ、届け
出るようにしよう。

また、もっとも腐敗している分子からは次のようなデマが流されている。

あいらりんセンター前で乗客手配師の追放

を呼び、労働者を煽動して警官に乱暴する事件があり、

- 大正区の火災事故で労働者が十二人焼死
- 吾々玉労働者で保険金を欺取した事件

などを取り上げて労働者の健康をひき、食事を提供したりするので、毎日五十人から六十人ぐらいの労働者がついて通っているグループもあると聞く。

これらの記事が、会長の基本方針等と

同じ号に掲載されているということは、会
の中で、労働者と連帯して斗争するという古
川会長の路線が主流を占めたものの、また
旧来の治安対策路線を完全に駆逐するま
での力量までには至っていないことを示し
ているものと思われる。

古川会長並びに新野君を支持される人々

よ、なお一層の努力と世間の協力によつても

て、旧跡の粉筆を戻すことを！

そのうえ、共に釜ヶ崎前に一して意

り合ひ、宮極の正正をはねのけ、世にふた

うではありませんか、
一、二本当で、